

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400112		
法人名	社会福祉法人 安全福祉会		
事業所名	グループホーム 安全の里		
所在地	三重県亀山市住山町590番地1		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和3年12月13日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490400112-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和	3年	11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム安全の里では法人の理念に基づいて、家族や地域と共に支え合い、自分らしく生活して頂けるよう、自立支援を目指したケアを心がけ、またご本人、御家族様の立場にたち安心、かつ、優しい介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設4年目の事業所は、広大な敷地内に母体法人運営の特別養護老人ホームとデイサービスセンターが併設され、災害時の備蓄や合同で防災訓練を実施することで手厚い災害時の備えとなっている。コロナ禍の中、感染防止の面から家族の直接面会は自粛してもらっているが、玄関から居間に入る大きなガラス戸越しの面会で利用者が家族から孤立しないよう支援している。支援の中で最も重視しているのは毎日の手作りの食事で、献立は利用者の好みも聞きながら職員が考え食材をスーパーから調達、職員交代で調理し毎食美味しく楽しい食事タイムとなっている。コロナ禍で屋外に出る機会が制限されること等から、利用者が自立できるやさしい介護・家族が安心できる介護で利用者の思いや意向に添う支援が来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所でのキャッチフレーズを考えケアをおこなっている。	キャッチフレーズの行動指針として、利用者が生き活きと輝けるよう・利用者の自立に繋げるよう、常に利用者目線でケアし、利用者の持ち味を十分発揮できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も昨年と同様でコロナウィルスの影響により地域との交流は全くできなかった。	コロナ禍で地域住民との交流やボランティアの来訪ができなかった。本部(母体)を通じ園児からコースターのプレゼントがあり、お礼状を書いて送る等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の力を活かした地域貢献は実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染対策により、運営推進会議は実施できなかった。	コロナ禍で一回も運営推進会議を開催することができなかった。	コロナ禍ではあるが、運営推進会議は参加者に事業所の理解を深め運営に反映する意見や助言を聞く大切な機会であることから、コロナ禍であっても文書等で開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町との協力関係の構築、体制はできているが日頃から密に連絡を取り合っていない。	コロナ禍であり、地域包括支援センターとの情報交換や相談事は電話で行っている。認知症サポーター養成講座に講師を派遣し、職員も参加している。書類は主に地域包括支援センターに出向き提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や学習会等にて職員の意識、知識の向上を図り、共有を行っている。	身体拘束廃止委員会を3カ月毎に開催し、毎月の職員会議で身体拘束廃止、虐待防止について話し合うことで、身体拘束については正しく理解している。日々の生活では特に言葉による拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や学習会等にて職員の意識、知識の向上を図り、共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会にて知識の向上、理解を目指し努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染対策により、面会の制限があり十分に交流はできなかったが、定期的に電話連絡にて状況説明等の報告を実施している。	家族の意見や要望は、玄関先の大きなガラス戸越しの面会時や利用者の衣類などを持参時に聞いているが、運営に反映する意見や要望はない。コロナ禍の中家族には事業所での生活の様子をお便りで報告することを計画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で職員と話す機会を設け反映させるようにしている。	介護室長は常にケアの場において職員とのコミュニケーションは大変良く、意見・要望・アイデアは気軽に言える環境にある。共用空間の生け花は職員の提案で、家庭からたくさんの花が持ち込まれ、調査当日も利用者の手で花生けされ、気持ちが和む空間となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて、定期的な給与規程の見直し、勤務状況の把握、衛生推進者の配置にて職員の労務実態を常に把握し、過労等がないか注意をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加はできなかったが、法人内の新人研修等、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会がなく同業者との交流は図れなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員同士での情報共有を行いながら、積極的に関わりを持つように業務を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と連絡を取り、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況が変化していく中で、ご家族に随時、報告、相談を行い、主治医にも相談し見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりの「人」としての尊厳を尊重した関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係性を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響にて面会や外出行事がほとんどできない状況ではあったが、ドライブ行事、ガラス越しの面会はして頂いている。	コロナ禍で馴染みの方との面会や場の関係継続はできなかったが、家族とは玄関の先のガラス戸越しでの面会、地元の理美容室に事業所へ出向いてもらう等、馴染みの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各職員が利用者同士の関係性を把握し、良好な関わり方ができるように配慮し、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設でも安心してサービスが受けられるように退所前の相談、他の施設の情報収集を他の事業所と連携をしながらフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や聞き取りや相談を受け本人の希望や意向の把握に努めている。	全ての利用者は自ら思いや意向が言えるので、日々の会話で聞き入れ把握している。把握したことは連絡ノートに記録のうえ職員個々がサインすることで共有し、思いや意向に添った支援が出来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや本人との関わりの中で把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する本人の状態に早く気づき、把握に努め、職員間での情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で意見を出し合い、本人がより良く暮らせるよう介護計画を作成している。	毎月の職員会議と合わせ担当者会議(ケース会議)を開催し、利用者毎に介護計画に沿ったケアが出来ているか話し合っている。計画の見直しが必要な場合はその都度、変化がなければ介護認定更新時に家族の意見を反映した計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICTを活用して介護記録を記入し、職員間で情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出等、ニーズに対応できていないこともあるが型に捉われず柔軟な対応やサービスに取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を上手く活かしきれていないが地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し、かかりつけ医との関係も良好に築けている。	利用者と家族が希望する従前のかかりつけ医と、事業所の協力医で受診しており、通常受診は事業所が同行している。週1回訪問看護師による健康チェックと、緊急時と夜間も電話で訪問看護師の指示が得られ適切な医療支援となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと随時連携し適切な看護や指示を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等随時、家族、病院関係者との情報交換や相談の場を設けている。訪問看護ステーションの助言や協力もあり、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された利用者の家族の意向を聞き取り、本人にも家族から話をしてもらい納得されたケースがあった。状態変化時には家族、訪問看護ステーションに連絡をとり、相談を行い、チームで支援に取り組んでいる。	終末期の状態になれば、まず家族の意向を聞いたうえで、医師・事業所と話し合う。結果、家族の希望と現状の事業所の体制で看取りが可能と判断すれば、訪問看護師と連携して看取り支援をする方針である。職員も支援を理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会での緊急時の対応は共有しているが、定期的な訓練等は行っていない為、今後は職員が不安なく対応できるように取り組んでいきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	学習会や、防災訓練等により意識の向上を図っている。	年2回併設の母体法人施設(特別養護老人ホーム等)と合同で、主に火災を想定し昼間と夜間の防災訓練が行われている。母体法人で災害時の備蓄、役割分担や連絡網が整備され、災害時の備えが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接し方に配慮し笑顔で優しい介護に努めている。人格を把握、尊重しプライバシーにも配慮を行って対応している。	利用者個々の性格や好みを把握し、特に排泄・入浴・居室の出入り・失禁時の対応は笑顔とやさしい言葉かけで接し、利用者の気持ちを害しないように配慮、利用者目線の支援が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、本人の意思を確認して自己決定してもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者の思いや、希望を全て添うことは困難ではあるが出来る限りのことは希望に沿って対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しているが、自己決定ができない利用者にはその人らしい身だしなみができているかは分からない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望を聞き入れながら、時には利用者にも手伝ってもらい、関わってもらっている。	3食とも利用者の好みも聞き、職員でその日の献立を考え旬の食材をスーパーから調達し、職員が交代で手作りの美味しい料理が提供されている。利用者の誕生日には好みの寿司や刺身料理の出前もある。おやつは利用者と一緒にホットケーキ、お好み焼き、かき氷等で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を見ながらメニューが偏らないよう工夫し提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い、実施してもらってはいるが、拒否がある利用者もみえ、できていない人もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの状況を確認し話し合いにて変更等を行い、取り組んでいる。	利用者個々の排泄パターンの把握とその日の表情しぐさ、食事前・寝る前に声掛けし、一部介助・見守りで全員トイレの排泄が出来ている。3居室にトイレ設置、3居室にポータブルトイレを設置し、夜間トイレでの自立排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数や排便状態についての把握に努めているが、個々に応じた取り組みは行っていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、曜日を決めず、入浴日の間隔を考慮して本人の希望も聞き、誘導を行っている。	浴室には浴槽に入りやすいスライド式のチェアがある。利用者の希望に添い、日々の体調を見ながら入浴日が偏らないよう入浴表で調整し、概ね週3回午後入浴となっている。入浴は介助職員と一対一となる機会であり、話も弾み楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明等の環境整備に配慮し、就寝前には心穏やかになってもらえるよう、声かけにも配慮するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルにて職員全員に内容が見られるようにしてあり、薬の変更があれば、随時、連絡ノートや会議にて情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウィルスの影響で外出行事や面会の機会が殆どない状態だが、日々のレクリエーション、月行事の内容を工夫し少しでも気分転換を図れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウィルスの影響により外食行事は行えていないがドライブ行事に関しては車から降りず利用者の自宅付近を走ったり、花見や景色を見学してもらっている。	コロナ禍で外出の機会は減ったが、日常的には天気が良ければ事業所周辺の散歩と外気浴を楽しんでいる。車でドライブを兼ね安濃ダムや椿神社等に、車中からであるが花見・紅葉狩りに出掛ける等の外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設で預かっているが現金を持ちたいと希望される利用者もみえる為、検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者はいるが、積極的な支援はできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や整理整頓、室温調整は随時行っているが、利用者それぞれ感じ方の違いがあり困難な時がある。	居間兼食堂は大変広く、随所に花が飾られ、天井の桁は木材で新しい木のぬくもりが感じられる。高い天井、開閉できる天窓と間接照明でほどよい明るさから、開放的な空間である。居間兼食堂と対面式のキッチンは見守りしながら食事の準備ができ、調理のいい香りが食欲を誘う等居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の座席等の配慮は工夫しているが、全員が思うまま過ごせてはいない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や好みの物を持って来てもらい、家族と相談、協力してもらいながら少しでも馴染みのある居心地の良い環境づくりを工夫している。	コロナ禍で居室の見学は自粛させてもらったが、画像での説明から各居室とも整理整頓されている。それぞれ好みの衣装ケース、テーブル・椅子・テレビ・ラジオ・布団等が持ち込まれ、テーブルや壁にはお気に入りのぬいぐるみ、家族の写真が飾られ個々の部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からない利用者がある為、表札を作成したり少しでも自立できる環境整備に取り組んでいる。		